

私と大内くんは“Be confident! Stay positive!!”というスローガンをつくり、姉妹都市派遣生としてバララット市を訪れました。これは、“自信を持って！前向きに!!”という意味です。“完璧な英語でなくてもいい、間違えてもいい。とにかく自分に自信を持ち、精一杯コミュニケーションをとろう。そして、何があっても諦めないで前向きに過ごそう。”そんな思いが込められています。バララット市での二週間は、毎日がとても充実していました。Ballrat(バララット)の名前の由来は、もともとはアボリジニの人々の言語であり、“Balla”が“resting”、“Arat”が“place”、つまり“休める場所”という意味だそうです。バララットは、まさにそんな町でした。私にとって、この二週間での出会いや経験は、今までで最も自分を成長させてくれた時間でした。

日本からメルボルンに到着するまでは、引率の方がいなかったことで、不安な気持ちになったことも多くありました。しかし、メルボルン空港に到着すると、私たちの担当をしてくださる Lizさんと、2人の友達の Jess が笑顔とハグで出迎えてくれて、それまでの不安は一気になくなり、ホッとした気持ちになりました。

着いてすぐ訪れたロレトカレッジでは、私たちのためにウェルカムパーティーを開いてくれました。お昼になると、ホストファミリーである Vallance family が迎えに来てくれて、私のホームステイがスタートしました。

私のホストファミリーは、お父さんの Dustin とお母さんの Maxine、そして5歳の男の子 Noah と2歳の女の子 Olena の4人家族です。Vallance Family は去年の夏も、ホストファミリーとして、私の妹を受け入れてくれた家族です。とても温かい家族で、私に対して本当の家族のように接して下さり、毎日がとても幸せでした。週末以外は毎日の活動内容が決まっています、ホストファミリーと過ごす時間が夕方からになります。だから私は、なるべく Vallance family と過ごす時間を大切にしようと心がけていました。Noah と Olena は、いつも私が家に帰宅するとすぐに駆け寄って来てくれて、とても嬉しかったです。お庭に出て3人で遊んだことが、一番心に残っています。2人とも得意げになって、おもちゃの使い方や、お庭で飼っているニワトリについてお話してくれました。そんな Noah と Olena の姿を見ていると、まるで本当に2人の姉になったような気持ちになりました。Dustin の手料理は、毎日とてもゴージャスで美味しかったです。人生で初めてチキンの丸焼きも食べました。Dustin と Maxine とは、毎日いろんなお話をしました。その日の活動内容を、写真を見せながらお話するのも日課でした。楽しかったことや学んだことを全て英語で伝えることは大変でしたが、2人とも理解しようと、優しく聞いてくださいました。土曜日は、Maxine と2人でショッピングに出かけました。バララット市から車で2時間ほどかかる Geelong という場所に連れて行ってくださいました。そこでは、ヘリコプターにも乗せていただきました。上から見下ろす Geelong の景色はとても綺麗で、一生心に残るものとなりました。

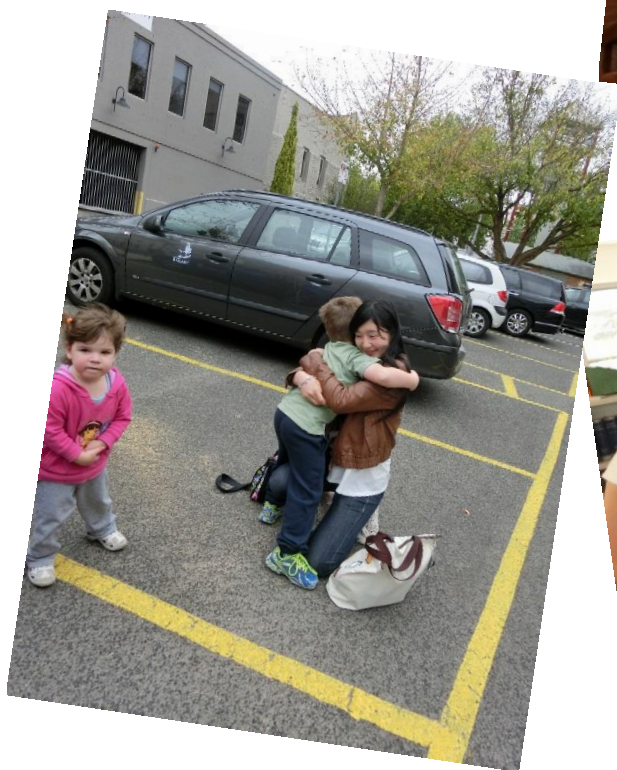
バララット市長さんと議員さんとの面会の際には、英語でスピーチをする機会をいただきました。私はあまり緊張することなく、自分の思いを気持ちを込めて伝えることができました。オーディエンスの中には、Lizさんや私たちのホストファミリー、学校訪問の際にお世話になった先生方も来てくださいました。スピーチ後に、“感動した!!”という言葉や、“将来、バララットで日本語の教師になるのはどう?”という言葉いただき、嬉しかったです。

私は以前にも中学2年生の時に、派遣団としてバララット市を訪れたことがありました。Lizさんのおかげで、その時のホストファミリーにも3年ぶりに再会することができました。あの頃はまだ自分に自信がなく、うまくコミュニケーションがとれないまま、ホームステイを終えてしまいました。それがずっと心残りだったので、今回もう一度 Leighton family と過ごすことができるととても嬉しかったです。Leighton family は、私の成長に驚いてくれました。「大学生になったら、もう一度うちにおいで。」と言ってくれて嬉しかったです。帰りは、Vallance family の家まで車で送ってくれたのですが、なんと同い年の Peter の運転だったのでとても感激しました。途中で一旦、車を止めて夜空を眺めました。そこには3年前と変わらず、南十字星がバララットの夜空に輝いていました。

Lizさんが計画してくださった充実したスケジュールは、私たちにとって一つ一つが特別な時間でした。Lizさ

んには、バララットの歴史やアボリジニの歴史についてもたくさん教えていただき、とても興味を持つようになりました。また、学校訪問では、限られた時間の中でたくさんの生徒や先生方と接し、別れを惜しむほど有意義な時間を過ごすことができました。毎日 Lizさんと会うにつれて、日に日に私たちの仲は深まりました。Tuki Trout Farmでランチを食べながら、この二週間の思い出を語り合った時には、「もっとバララットに居たい。」という気持ちでいっぱいでした。

最終日の前夜、Lizさんと私たちのホストファミリーを始め、関わってくださった沢山の方々、そして3年前に知り合った Shireeさんまでがレストランに集まってくださいました。この時、私はたくさんの方からの愛を感じ、自然と涙が溢れ出てきました。この機会を通して、猪名川町とバララット市それぞれの素晴らしさを、改めて知ることができました。これから、猪名川町についてももっと詳しく学んでいきます。そして姉妹都市の交流に、より一層、貢献していきたいです。ありがとうございました。



オーストラリアで約二週間過ごした中で、一番心に残った事は、オーストラリアの方々、とても親切にして下さったことです。

僕が怪我をしていたからかもしれませんが本当に良くして下さいました。

例えば、電車やバスの中で、僕の荷物を持って下さったり、体を支えていただいたりしました。階段などでは、全く知らない人が、

「車椅子を持ってあげるよ」と声をかけてくれ、荷物を運んでくれたりしました。

出発する前は、怪我をしてオーストラリアに行くのがとても心配でしたが、実際に行ってみると、何の心配もなく楽しく過ごすことができました。

バララットに着いてみると猪名川町と「よく似ているな」と思いました。最初に感じたのは町の雰囲気です。

すぐ近くに綺麗な自然があって、とてもどかな所です。

空気が澄んでいて気持ちよく、落ち着いた感じが大好きです。そして町の人々の心の温かさに感動しました。

普通に道を歩いていても、「ハイ！」と気軽に声をかけてくれたり、ニコニコと笑顔を見せてくれたりして、こちらの方まで、明るい気分になりました。

僕がホームステイしてお世話になった、ジェフリー一家は、四人家族で、皆、明るく、優しく、特に長男のベン（十二才）とは、接する時間が多く、毎朝僕を「Ryo! Get up!」と起こしてくれたり、一緒にゲームや犬の世話をしたり、とても楽しかった。

ただ一つだけ心残りなことは、ベンとスポーツができなかったことです。

ベンはサッカーとオーストラリアンフットボールをやっていて、とてもスポーツが好きな少年です。僕がラグビーをやっているので一緒に運動することを楽しみにしていたのです。僕が足を怪我してしまい、思うように動けなくて、キャッチボールしかできなかったのです。その事だけが本当に悔しくて残念です。

僕は行く前に、日本の習慣や文化をオーストラリアの人に伝えたいと思っていました。

そこで、僕はホストファミリーに食事をいただく前には「いただきます」。食後は「ごちそうさまでした」と言って感謝の気持ちを表すということを言うと、一日目～二日目は覚えられなくて、「何だっけ？」と聞いてきましたが、それ以降は自分から言ってくれたのがうれしかったです。

他にも「じゃんけん」を教えました。

これはなかなか難しかったみたいで、覚えるのに時間がかかりました。何回もするうちに覚えてくれて、ごく普通に使ってくれるようになったのでびっくりしました。

僕はオーストラリアの食事にも興味がありました。よく耳にするのはオーストラリアンビーフですが、カレーやパスタもとてもおいしく、一番はやはりバーベキューでした。

家族の中でも取り合いになる程です。二回もしてくださり幸せでした。

僕がオーストラリアで一番感動したのは、「星空」です。ホームステイしたジェフリーさんの家はバララット市から三十分程離れたところにあり、周りにはほとんど家がないため、明かりを全部消すと真っ暗になります。そうすると、とても美しい星空が見えます。小さい星まで見えるのです。

ある晩ホストファミリーに呼ばれて外に出ると、そこは想像を絶する世界で、思わず、言葉を失いました。空を見上げるとまるで宇宙にいるように、驚くほどきれいな星空が広がっていたのです。猪名川町の

星空もきれいだと思っていたのですが、その何百倍もきれいで、写真に撮って見せたいぐらいです。

このような楽しく感動する日々もあっという間にすぎて、別れの時が来ました。

その時「帰りたくない。ずっとここに住みたい!」という気持ちで一杯になり、涙が止まりませんでした。

僕はこの二週間で色々な方にお世話になりました。特にホストファミリーの皆さんや、リズさん、一緒に行った和田さん達には本当に感謝しています。

体が不自由だとどれほど大変かということを経験し、色々な人達に支えてもらい、人の優しさ、親切な心を実感することができました。逆の立場になった時、自分の時のことを思い出して、積極的にサポートしたいと心に誓いました。

最後に、自分がオーストラリアで感じたこと、体験したことを、しっかりと胸に刻みたくさんの人々の支えがあって無事に帰国できたんだという感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。そしてこの経験をこれからの自分の将来に生かして、社会に貢献できる人材となれるように努力します。

貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

